

## 定期報告書添付書類

農場名:

項目	内容			
1 農場平面図	別紙のとおり			
2 必要のない者を衛生管理区域に立ち入らせないようにするとともに、衛生管理区域に立ち入った者が飼養する家畜に接触する機会を最小限とするために講じた措置	立て看板・門扉・バリケード・カラーコーン・ロープ プランター等・石灰帯・その他( )			
3 衛生管理区域・畜舎等の出入口付近に設置した消毒設備の種類	衛生管理区域：動力噴霧器(手動含)・消毒ゲート・石灰散布・踏込み消毒槽・その他( ) 畜舎等：踏込み消毒槽・消毒用マット・その他( )			
4 畜舎ごとの家畜の飼養密度	(1) 畜舎名(ステージ)	(2) 飼養密度：飼養形態		
	( )	m <sup>2</sup> /頭(羽)：		
	( )	m <sup>2</sup> /頭(羽)：		
	( )	m <sup>2</sup> /頭(羽)：		
	( )	m <sup>2</sup> /頭(羽)：		
	( )	m <sup>2</sup> /頭(羽)：		
	( )	m <sup>2</sup> /頭(羽)：		
5 埋却用地の確保の状況	(1) 埋却用地の所在地 (自己保有の場合○を記入)	(2) 面積	(3) 利用状況	(4) 農場からの距離
	( )	m <sup>2</sup>	田・畠・山林・( )	km
	( )	m <sup>2</sup>	田・畠・山林・( )	km
	( )	m <sup>2</sup>	田・畠・山林・( )	km
	( )	m <sup>2</sup>	田・畠・山林・( )	km
	(5) 埋却用地が自己の所有地でない場合 所有者の氏名又は名称 _____ 当該土地の利用に関する契約の内容 [ ]			
	(6) 近隣住民、関係者への埋却の実施に関する説明 有・無			
	(7) 説明に対する当該関係者の承諾 有・無			
	(8) その他埋却の的確かつ迅速な実施のため参考となるべき事項 [ ]			
	6 焼却・化製のための準備措置	準備措置を講じて いる ・ いない		
講じている場合は、以下(1)～(4)に記入				
(1) 焚却施設・化製場の名称・所在地				
(2) 農場から焼却施設・化製場までの距離 km				
(3) 焚却施設・化製場の近隣住民その他の関係者への 焼却・化製の実施に関する説明の有無 有・無				
7 埋却用地・焼却施設・化製場を 確保していない場合は、これら を確保するための取組の状況	(4) 説明に対する当該関係者の承諾の有無 有・無			
	(1) 土地の購入について 検討中・調査中・交渉中・購入済			
	(2) 土地の賃貸契約について 検討中・調査中・交渉中・契約済			
	(3) 焚却施設について 検討中・調査中・交渉中・契約済			
	(4) 化製場について 検討中・調査中・交渉中・契約済			
8 農場ごとに作成する飼養衛生 管理マニュアル	(写しを提出)			
以下 大規模農家のみ記載				
⑨ 担当の獣医師の氏名・所属又 は担当の診療施設の名称	獣医師氏名： 所 属 等：			
⑩ 従業員が農林水産大臣の定める一定の症状を確認した場合に家畜保健衛生所へ直ちに通報することを規定したもの	(写しを提出)			

## 注意

1 本添付書類は、農場ごとに、家畜の所有者(当該所有者以外の管理者がある場合にあっては、当該管理者)が作成し、定期報告書とともに提出してください。また、本添付書類に記載する事項は、当該年の2月1日時点のものとしてください。

2 「1 農場平面図」は、別紙として提出してください。  
なお、下記4項目については、農場平面図に必ず明示してください。

- ①畜舎・飼タンク・飼料庫・たい肥舎等の畜産関係施設の配置
- ②衛生管理区域及びその出入口
- ③消毒設備の設置箇所
- ④母屋(事務所)が隣接する場合はその位置

3 「2 必要のない者を衛生管理区域に立ち入らせないようにする(中略)飼養する家畜に接触する機会を最小限とするために講じた措置」及び「3 衛生管理区域・畜舎等の出入口付近に設置した消毒設備の種類」は、該当する項目に○を付し(複数可)、該当する項目がない場合は、その他の( )内に記入してください。

4 「4 畜舎ごとの家畜の飼養密度」(1)における( )内のステージには、下記を参考に記入してください。

- (1)乳用牛・搾乳・乾乳・育成・子牛 等
- (2)肉用牛・肥育後期・肥育前期・育成・子牛 等
- (3) 豚 :繁殖・肥育・育成・子豚
- (3) 鶏 :採卵・肉用・育すう・初生 等

5 「4 畜舎ごとの家畜の飼養密度」(2)における飼養形態とは、単飼または群飼(鶏の所有者を除く)を記入し、その詳細<sup>\*1</sup>を記入してください。

## ※1 飼養形態の詳細とは

牛: 単飼の場合⇒対尾(頭)式繋ぎ、牛房等、群飼の場合⇒フリーストール、

牛房等

豚: 単飼の場合⇒ストール、豚房等、群飼の場合⇒豚房等

鶏: ケージ式〇段、平飼い等

## 【アニマルウェルフェアに関する基準(畜産技術協会)】

乳牛⇒(単飼)2.4m<sup>2</sup>、(群飼)5.5m<sup>2</sup> 肉用牛⇒(単飼)2.0m<sup>2</sup>、(群飼)5.4m<sup>2</sup>

豚 ⇒(肥育)0.8m<sup>2</sup>、(母豚)1.2m<sup>2</sup> 肉用鶏⇒60羽/坪 採卵鶏⇒0.04~0.06m<sup>2</sup>/羽

6 「5 埋却用地の確保の状況」における(2)の面積は、m<sup>2</sup>(平方メートル)で記入してください。なお、単位換算は下記のとおりとしてください。

## 【埋却必要面積】

牛 ⇒ 5m<sup>2</sup>/頭、豚 ⇒ 0.9m<sup>2</sup>/頭、鶏 ⇒ 0.7m<sup>2</sup>/100羽

1坪 = 3.3m<sup>2</sup> 1畝 = 99m<sup>2</sup> 1反 = 990m<sup>2</sup> 1町 = 9,900m<sup>2</sup>  
1アール(a) = 100m<sup>2</sup> 1ヘクタール(ha) = 10,000m<sup>2</sup>

7 「6 焼却・化製のための準備措置」については、準備措置を講じている場合のみ、その下欄の(1)~(4)の4項目を記入してください。

8 馬の所有者は、「5 埋却用地の確保の状況」、「6 焼却・化製のための準備措置」、「7 埋却用地・焼却施設・化製場を確保していない場合は、これらを確保するための取組の状況」の記入は不要です。

9 大規模所有者<sup>\*2</sup>は、「⑨ 担当の獣医師の氏名・所属又は担当の診療施設の名称」、「⑩ 従業員が農林水産大臣の定める一定の症状を確認した場合に家畜保健衛生所へ直ちに通報することを規定したもの」の提出が必要です。また、「⑩」は、別紙で提出(馬の大規模所有者は提出不要)をお願いします。

## ※2 大規模所有者とは、次の頭羽数以上の家畜の所有者をいう。

- ①成牛(次のイ・ロに該当するもの)の場合200頭以上  
イ 月齢が満17月以上の肥育牛(乳用種の雄牛・交雑種の牛に限る。)  
ロ 月齢が満24月以上のその他の牛
- ②育成牛等(次のイ・ロに該当するもの)の場合3,000頭以上  
イ 月齢が満4月以上満17月末満の肥育牛(乳用種の雄牛・交雑種の牛に限る。)  
ロ 月齢が満4月以上満24月末満のその他の牛
- ③水牛・馬の場合200頭以上
- ④鹿・めん羊・山羊・豚・いのしのしの場合3,000頭以上
- ⑤鶏・うずらの場合10万羽以上
- ⑥あひる・きじ・エミュー・だちょう・ほろほろ鳥・七面鳥の場合1万羽以上